

5	アリス「なんなの？ 百合が悪いってか？」
4	エリ「そりゃ告つてすぐにエッチさせろなんて言われたらどん引くに決まってるでしょ」
3	アリス「だってまだだよ？ 向こうから好きですって言うてくのに、じゃあやらせてって言ったらどん引きして逃げてくなんて！」
2	エリ「アリスさあ、やっと一日の学業が終わったっていうのに、いつまで落ち込んでんのよ？」
1	アリス「はあ……。またふられたあ……」

9	エリ「はあ。顔も頭もとびつきりよくて、おまけにシュートボクシングの学生チャンプ。男子にも女子にも非常におモテになるのに……この性格だからなあアリスは」
8	エリ「だーもおわかったから。恥ずかしいから大声で卑猥なこと言うなって」
7	アリス「だってやりたいんだもん！ 可愛い女の子とならなおさ ら！ それって普通でしょ？ セックスしたい！ セックス う！」
6	エリ「お前が性欲の塊の男子中学生みたいな思考してるからだよ」

14	<p>アリス「あー、もう！ 今日こそ女の子とヤレるって思ったのに！ ヤリたいヤリたい！ ね、エリ、一発ヤラせて！</p>
13	<p>アリス「男子って何？ 股からチンコ生えてるアレ？ チンコじゃないや触手か？ そんなキモいの、相手にできるわけないっしょ！」</p>
12	<p>エリ「大体の乙女は男子に目が向くんだった。ていうかさ、もう男子と付き合ったら？ その方がうまくいくって」</p>
11	<p>アリス「だってさ、男子とかあり得くない？」</p>
10	<p>エリ「しかも男子にまったく興味なし。女の子にしか愛情を感じないガチ百合……。そりゃ告ってきた女の子もビビるって」</p>

	18		17		16		15
	<p> アリス「はーあ、エリにもふられた……。こりやマジで今日もオナニーコースだなあ……。て、あれ？ 足がつかないーいきやああああッ!？」 </p>		<p> エリ「そうしなよ。その方が世の中平和だから。じゃあねー」 </p>		<p> アリス「ううー、ちゃんと満足させてあげるのにー。こうなったら帰ってオナニーしてやる!」 </p>		<p> エリ「お前は誰でもエエんか！ 私は彼氏いるっつーの！ それにそっちの趣味ないし、興味もない」 </p>
<p> ※※0…びゅーん、どすんつ、という落とし穴に落ちてお尻を打ったコミカルな音 </p>							

19	<p>アリス「いててえ……お尻打ったあ。誰よつ、こんなとこに落とし穴掘ったの！ 落ちた私も私だけどつ。ひやつひやつ、笑える」</p>
20	<p>アリス「……うえっ？ わ、笑ってる場合じゃない！？ ここどこよ！？ 今まで私、街の中の道路歩いてたのに？ 落とし穴に落ちたら変なことに出た？ 立派な柱とかあるし、石の床とかだけど……どっかの宮殿？」</p>
21	<p>イリス「ここは召喚の間です」</p>
22	<p>アリス「誰っ！？ つて……うわぁ、綺麗な子……。肌白いしお目々が青いし、お姫様みたい。ひよつとしてここ海外？ 外国の美少女？」</p>

26	25	24	23
アリス「そるあーす……？ 何それ聞いたことない。ソルトアイスの仲間？」	イリス「私の名はイリス。訳あって、アリスさんをこの世界――ソルアースへ召喚した者です」	アリス「あれ？ 私の名前、なんで知ってるの？ こんな美人に名前覚えてるなんてっ、めっちゃ感動！ 愛が生まれた瞬間だよ！ 一目惚れしました！ お嬢さん、お名前はなんておっしゃるの？」	イリス「ふふ。ここは外国ではありませんよ、アリスさん」

31	イリス 「はい。実は、アリスさんを召喚したのには、私達ヒト族の、勝手な事情からなのです」
30	アリス 「魔法！？ うわっ、ますます異世界っぽいね。ほんとに私、異世界に喚び出されたんだ？・
29	イリス 「その落とし穴こそ、アリスさんをここへ喚び出すために私が魔法で作ったもの」
28	アリス 「異世界！？ 落とし穴に落ちたらそこは異世界だった！？」
27	イリス 「ソルアースはあなた達で言う、異世界です」

34	<p>イリス「戦いに勝ち抜き、優勝した部族は4年間、すべての部族の頂点に立つことができます。他の部族は、優勝した部族のいかなる命令にも服従しなくてはならないのです」</p>
33	<p>イリス「本当ですか！？ ここソルアースでは4年に1度、部族の代表者達によって行われる『ハーレムバトル』という戦いがあるのです」</p>
32	<p>アリス「なあに？ なんか困ってるの？ イリスちゃんみたいな美少女が助けを求めてるなら、私はなんだってしちゃうよ！」</p>
35	<p>イリス「けれど、他部族の中には好戦的だったり、差別意識の高い種族も少なくありません。私達、平和を愛するヒト族としては、そういう部族に、頂点たる『ハーレムクイーン』になられては困るのです……」</p>

39	アリス「はあ、スーパーマンになるってわけね」
38	イリス「アリスさんでなければ、おそらく優勝するのは難しいと思います。アリスさんのような地球の人は、ソルアースにくることによって眠っていた潜在能力が目覚め、身体能力が地球にいた頃より爆発的に高まります」
37	アリス「そんな大事な大会なのに、出るのが私みたいなよそ者でいいの？」
36	イリス「平和な4年間を勝ち取るためには、優勝しなくてはなりません。そこでアリスさんには、ヒト族の代表として大会に出てほしいのです」

43	42	41	40
アリス「はーん、だから勇者になる私が喚ばれたってわけね」	イリス「それが、地球からソルアースへと召喚された勇者の力。その能力がないと、ヒト族では他の部族にはかかりません」	アリス「うっわ、すごいチートだねそれ」	イリス「その上、特殊能力も、すでに体得しているはずです。戦った相手が負けを認めた際、相手の優れた能力をコピーして、自分のものとする力。さらに、手にしたその力は、オリジナルの10倍の効果を持ちます。能力をストックしておける数も、無制限です」

47	<p>アリス「ねえねえ、私がほんとに優勝したらさ、イリスちゃんとエッチがしたいんだけど。そう言う願いでもいいわけ？」</p>
46	<p>アリス「なるほどなるほど。せっかく期待されて喚ばれたんだし、可愛いイリスちゃんのお願いだし、そういうことなら手伝っちゃおっかな」</p>
45	<p>イリス「突然喚び出しておいて身勝手だということはわかった上でお願いします。もし、それをかなえてくださるのなら、アリスさんのいかなる願いもかなえましょう！」</p>
44	<p>イリス「はい。ですが私は、アリスさんなら、大会で優勝できると信じています。だからお願いです。大会に出場して、ぜひともヒト族を部族の頂点に！」</p>

51	アリス「いいよん。私も、こつちでの自分の能力を確かめとく必要があるしね」
50	イリス「ああ！ あなたを喚んでよかった、ありがとうございませす！ ではまず、アリスさんの力を試させてもらってもいいですか？」
49	アリス「うひょー！ それって勝てばやりたい放題ってこと！？ マジでハーレムクイーンじゃん！ やった！ やるよ私！ その大会に出て優勝しちゃおうじゃないの！」
48	イリス「……えーと、エッチ……ですか？ 戦いに勝てば、対戦相手を自由にできる権利を得られますから、アリスさんが見事、ハーレムクイーンになった暁には、すべての種族と好きにだけできますけど……」

55	<p>アリス「ああ、勝負に勝ったらあんな人と好きなだけセックスできるなんて！ まさにハーレム！ 私をソルアースに喚んでくれてありがとう、イリスちゃん！</p>
54	<p>アリス「背が高くって巨乳、それに褐色のお肌。卑猥なビキニアーマーに包まれた筋肉質な体付きが私好み！ 化粧っ気とかまったくないのに、めっちゃ綺麗な顔立ちしてるし！」</p>
53	<p>アリス「わー、すごい人。シュートの試合のときより観客多いし。でも、緊張はまったくなし。それよりあんな美人が相手だなんてっ、わくわくしかないよ！」</p>
52	<p>イリス「飲み込みが早くて助かります。では、こちらへ」</p> <p>※00…たくさんの人が歓声を上げている音</p>

59		58		57	56
<p>アリス「うわッ!? ちょっ!? くううッ!? こっちは防具もないのに、あんな危ないもので攻撃するのもやっぱお構いなしかつ。一撃でも食らったら終わり。でも!」</p>	<p>※ 00…剣を連続して振り下ろしたり薙いだりする音</p>	<p>ウルド「武器に氷の魔法を付与できるのが、あたしの能力の一つ。さあ勇者アリス、行くぞ! はああああ!!」</p>		<p>※ 00…ぱきぱきと物が瞬時に凍り付いた音</p>	<p>ウルド「あたしはヒト族の戦士、ウルド。地球からやってきた勇者とやらの力、存分に味わわせてもらおう。——凍て付く刃ッ!!」</p>

63	62	61	60
<p>アリス「言われなくても！　でい！　はッ！　たあッ！」</p>	<p>ウルド「がッ！？　くふう！？　あたしより、速い！？　ふふふっ、これはいい！　もつと、もつと打ってこい！」</p>	<p>※00…繰り出したパンチが対象にヒットした音</p> <p>アリス「心配しなくても今から攻撃開始だって！　元の世界で動くのと大違い！　それに相手の動きもはっきり見える！　剣をギリギリでかわして——ここッ！　てやッ！！！」</p>	<p>※00…剣を連続して振り下ろしたり薙いだりする音</p> <p>ウルド「ふッ！　はあッ！　どうした勇者、避けてばかりでは戦いにさえならないぞ！」</p>

66	<p>ウルド「ハアハアッ！ もっと打って！ あたしを痛め付けてえ！ ！ ああつ、氷の剣の冷気が肌に刺さってえ……んんっ、それまで感じるウ！」</p>
65	<p>アリス「私の攻撃が効いてない！？ ていうか興奮してる！？ だからビキニアーマーなの！？ うはあつ、私好みの変態さ んだ！」</p>
64	<p>ウルド「うが！？ ンッ！？ ぐふウ！？ んんっ、あああ！ きたっ、きたア！ いいっ、イイっ！ その攻撃っ、気持ち いい！ くあああンッ、痺れるウ！」</p>

※00…繰り返したパンチやキックが対象に連続で
 ヒットした音

68	<p>ウルド「はぐんッ!? うつ、ぐふウン! アリスの攻撃つ、くふあ!? 最高だ! こんなに感じるのつ、初めて! 身体がヒクヒクしてつ、震えが止まらない!」</p>	67	<p>アリス「ウルドさん、あんな美人が、身体をいやらしくくねらせて……! 太腿をスリスリ、自分で擦へこすり付けて……。たつ、たまんない! いっぱい苛めたくなる! でりやあッ!!」</p>
69	<p>アリス「ウルドさんみたいな女戦士が、こんなにもドMだったなんて! ああもうつ、私まで興奮して! ダメだ……戦ってる場合じゃない! 抱きたい! エッチしたい! 攻めまく</p>	<p>※00…繰り出したパンチやキックが対象に連続でヒットした音</p>	

73	アリス「ふふつ。ウルドさんの期待通りのこと、してあげる！ この引き締まった生尻を……ンッ！　ンン！」
72	ウルド「あつぐう！？　ビキニパンツを脱がして！？　ぐあつ？ 手を振り上げて……！？　そんな、まさか！」
71	アリス「寝技は専門外だけど……ほらウルドさんつ、四つん這い になりなさい！」
70	ウルド「くああ！？　アリスつ、何を……！？」
	※S00…人が地面に勢い良く倒れ込んだ音
	りたい！　ウルドさんッ、押し倒しちゃう！！」

77	<p>ウルド「につ、匂いのことは……っ、くうう、言わないでくれ……!!」</p>
76	<p>アリス「それに……すんすんっ。んああっ。汗に混じって、すえた匂い……はああ！ これ、女の匂い……雌の匂いが、むわんって立ち上ってる……!!」</p>
75	<p>アリス「ほんと、すごい感じてるみたいね。かなり強く叩いてるからすっごく痛いはずなのに、ああ、甘い汗まで飛び散らせて……っ」</p>
74	<p>※00 お尻をバシバシと何度も引っぱたく音</p> <p>ウルド「ひぎゃッ!? が!? あぐンッ!? おっ、お尻叩かれたらっ、ぐひンッ！ 余計につ、気持ちよくなる……!! ひひンッ！」</p>

81	80	79	78
ウルド「はひイツ!? お尻叩きながらっ、アリスの指が股の間に!? あんん!?」	アリス「ふふふ。まだまだよつ。もつと感じさせてあげる! ほら!」	ウルド「そんな!? あひんっ、大勢に見られて……匂いなんて嗅がれてっ、恥ずかしいのにつ、んひィ!? お尻叩かれて……感じてっ、しまう! ああンッ!」	アリス「攻撃食らって感じてたくせに、匂いは恥ずかしいんだ……。ふふ。周りで見てる人達にも、ウルドさんの股から出る淫らな匂い……嗅がれてるよ」

85	ウルド「ぐひンッ!? あっ、ああ! 恥ずかしすぎるのにつ、背筋がゾクゾクする! アソコ擦へこすㇾられるたびにつ、頭の中が痺れるくらい……快感が流れ込んでくるウ!?」
84	アリス「ふふ。音聞かれるのも、恥ずかしくて興奮するのね。じやあ……いやらしいアソコの入り口に、指をすり付けて……んん! ぬちゅぬちゅ、ぐちゅ、ぐちゅっ」
83	ウルド「だっ、ダメだ……! くひあン! そんなに音、鳴らしたら……っ、んひイ!? 周りに聞こえるう!」
82	アリス「うわぁ、卑猥なお口からぬるぬるした汁が垂れてきてる! ウルドさん、ほんとにいやらしい。クチュクチュいつてる……変態にもほどがあるよ」

89	ウルド「ひっ、襷《ひだ》っ、掻き混ぜるのは……！ いひん！ ダメだ……ダメえ！ それ以上、したらア……！」
88	アリス「広げるだけじゃないよっ。うねうねしてる中の粘膜も、 擦《こす》ってあげる！ んっ、グリグリ、グリグリっ！」
87	ウルド「ひぐいいンッ！？ そんなっ、いきなり二本まとめて入 れたら！？ くああ！？ 肉の穴の中、ぐいぐい広げられる っ、くひィ！」
86	アリス「まだまだなんだからっ。ほーら、今度はこの濡れ濡れの 穴に……指を入れてッ、くんん！」

93	<p>ウルド「ひいいい!? おつ、大勢の人の前なのにつ、イカせる… …のは……!」</p>
92	<p>アリス「ウルドさんみたいな綺麗な女騎士がここまで変態だなんてっ。ああっ、私も昂ぶって手が止まらない! 攻めまくって、イカせる!」</p>
91	<p>ウルド「はぎンッ!? うひい!? アソコの中いじりながらっ、痛いことされたら……んぐいい!? 耐えられない! ああ ンッ、らめらア!」</p>
90	<p>アリス「気持ちよくなるだけでしょ! ほらっ、お尻も叩いてあげるッ! ふん! ンンン!」</p> <p>※90…お尻をバシバシと何度も引っぱたく音</p>

97	96	95	94
ウルド「ダメ！ らめえ！ いつ、イカせないで！ あんぐウ！ 手、止めて……！」	アリス「身体ブルブル震わせちゃって。ウルドさんもイキたいんですよ？ 我慢せず、イチちやいなさい！」	ウルド「だっ、めら！ んんぐウ！ アソコっ、ズリズリ摩擦したら……ひゅぐぐン！」	アリス「絶対イカせる！ ウルドさんはただ感じてればいいのよ！ 淫らなお口の中っ、グチョグチョ引っ掻いてあげるからッ！」

101	100	99	98
ウルド「きゃああ！？ 見ないでくれえ！ お漏らししてるみたいでっ、ひひゃああッ！？」	アリス「うわわ！？ ピュッピュッて潮噴いてる！？ 潮噴きつて初めて見た！ こんなにすごいんだ！」	ウルド「ひぎッ！？ そこっ、クリ……ッ！？ つっ、つっ、摘み上げたらっ、んんぐ！？ 耐えられなっ、ひ……イクうううッ！！」	アリス「だくめ。ここ、摘んであげるから、いっぱいイツちやえ！ ほらっ、キュウウッと！」

105	104	103	102
ウルド「うつ、ハア……！　ハアハアハツ、イツ……イカされたあ……つ。あたしの、負けえ……です……つ。はあぁ……つ」	アリス「あああつ！　美人を抱けるって最高！　女の子をイカせるのつ、私もめっちゃ気持ちいい！　んふうつ！」	ウルド「はひイイツ！？　見られるの気持ちいい！　イクの止まらない！？　潮噴きながらいくいくウウウツ！！」	アリス「そう言いながらイツてるウルドさん可愛い！　ほらほらつ、ウルドさんがお漏らししてるとこ、みんな見てるよ！　見られながらもつとイツて！」

108	<p>アリス「あぁ〜っ。ようやく初体験、しかもウルドさんみたいな美人を抱けたし！ これからも対戦相手をヒイヒイ言わせて負かしてやるわ！」</p>
107	<p>アリス「ええ！？ エツチして勝ったのに……こんなに盛り上がるの？ この世界じゃこれが常識ってことなんだ。てことはめっちゃ私向きじゃん！」</p>
106	<p>※00…魔法を体得した音（エナジードレインして身体に吸収したようなイメージ）</p> <p>イリス「勝負ありですね！ これでアリスさんはウルドの、痛みを快楽に変える能力と、武器を氷属性にすることが出来る能力を手に入れました」</p>

※00…たくさんの人が歓声を上げている音

※81…鳥のさえずりなど、朝を連想させる音

109

アリス「んくくっ、はあくくっ！ おはよう。誰もいないけど。ふう、イリスちゃんが用意してくれたお部屋もベッドも快適だった。よっし、ちよつと散歩でもしよっかな」

110

アリス「うっはあり。見たことのある家が一つもない。全部石造りのお家……。しかも車じゃなくて馬車だし。なんかお金が使われてないっぽくて物々交換してるし……。やっぱここって異世界なんだね」

111

アリス「それに……。えっへ♪私を勇者様って呼んでくれる村の人は、みんな美人ばっかだし。何ここ最高？ ハーレムクインになる前からハーレムじゃん！」

116	115	114	113	112
<p>ウルド「はああ！ ありがとう！ では、これからはお姉様と呼ばせてもらおう」</p>	<p>アリス「うわあ！ 美人がちよっと目を逸らして恥じらいながらとかつ、朝から破壊力抜群で、理性がぶっ飛びそうなんですけど！ いいよいいよ、ウルドさんの好きに呼んじやって！」</p>	<p>ウルド「戦闘であたしを負かして、女としても、これまでにない悦びを与えてくれたあなたを……お姉様と、呼びたいんだ……。ダメ、だろうか？」</p>	<p>アリス「ウルドさん、おはよう……て、お姉様？ 私の方が年下だと思っただけ……？」</p>	<p>ウルド「あつ、おはようお姉様！」</p>

120	119	118	117
<p>ウルド「おやすいご用だ。ま、お姉様のいる地球と違って、この集落には見たままのものしかないがな。そうだ、あの祠には案内しておこう。ついてきてくれ」</p>	<p>アリス「ああ、異世界ってどんどこかなって見て回ってたの。そうだウルドさん、この辺りを案内してくれない？」</p>	<p>ウルド「ところでお姉様、この集落の中をうろついていたようだが、何用だったのか？」</p>	<p>アリス「年上からお姉様って呼ばれるのもいいもんだねえ。ちょっと興奮しちゃう！」</p>

124	123	122	121
<p>ウルド「そこで、普段は対立している部族が力を合わせ、多大な犠牲を出しながらも、魔神を撃破した。魔神の肉体は滅び、その魂はあの祠に封じ込められたと言われている。まあ、あくまで言い伝え、なのだな」</p>	<p>ウルド「この地には古い言い伝えがあつてな。数千年前、このソルアースに魔神が現れて、暴れ回ったらしい。世界は壊滅の危機に陥り、生きとし生けるものすべてが、生きるか死ぬかの瀬戸際にさらされた」</p>	<p>ウルド「そうだ。家畜を飼うにはいいが、風が強すぎて農業がしにくい土地なんだ。おっと、見えてきた。あれが先ほど言っていた祠だ」</p>	<p>アリス「O K。この集落の周りって、ずっと草原が続いてるんだね」</p>

128	127	126	125
<p>アリス「おお！ ウルドさんがヤキモチやいてる！ 年上の美人女戦士なのに無性に可愛く思えちゃうなあ〜！」</p>	<p>ウルド「もう、お姉様！ 昨日あたしをあんなに好きにしておきながら、他の女……しかも他部族のことを気にかけるのか？」</p>	<p>アリス「あ、でもそうするとハーレムクイーンってシステムもなくなつて、私が他の部族の女の子とイチヤイチャできなくなるから、このままの方がいいのか！」</p>	<p>アリス「へえ〜、魔神かぁ。その危機が去っちゃったら、せっかく心が一つになってた色々な部族も、また対立するようになったんだね。そのまま仲良くしてればいいのに」</p>

133	132	131	130	129
<p>ウルド「ああつ、お姉様！ そんなに強く……抱き締められたら……！ はああ！」</p>	<p>アリス「こんな場所だからいいんじゃない！ 外だし、誰もいないし……誰かくるかもって思ったら、燃えるでしょ！ えいつ」</p>	<p>ウルド「そ、そんなつ。こんな場所で……つ、何を言っている？」</p>	<p>アリス「可愛いよ！ 昨日だって涙目になりながらよがってたもん！ あれは今思い出してもたまらないよ！ ていうか、思いついたらむらむらしてきた！」</p>	<p>ウルド「か、可愛いなどと……つ、あたしのように変態には、似合わない言葉だ……」</p>

137	136	135	134
<p>イリス「ついに部族の頂点を決めるハーレムバトルが始まります。準備はいいですかアリスさん」</p>	<p>アリス「あぁっ！ 朝っぱらからウルドさんみたいな美人を抱けるなんてめっちゃ幸せ！ 異世界に召喚されてよかった！ はぁあっ、ウルドさん、私、止まんないからね！ んちゅうっ！」</p>	<p>ウルド「きやはあ！？ お姉様！ ああンツ！」</p>	<p>アリス「ふふふ。ウルドさんだって私に抱かれるの、待ってたでしょ！ 可愛い！ ほんと可愛い！ もう押し倒しちゃう、おりゃあッ！」</p>

142	アリス「うーん、戦いやすさよりも、むしろちゃんと女の子なのか心配なんだけど……」
141	イリス「そうです。スライム族はその肉体的構造上、捕まればとても厄介です。とにかく相手に捕まらないでください！」
140	アリス「す、スライム？ スライムってあの、どろどろの？」
139	イリス「ふふ。それくらいリラックスされてるのなら心配いらないですね。初戦の相手は、スライム族のサーラサーラという選手です」
138	アリス「OK！ いつでも、可愛い女の子を抱く準備はできてるよん！」

146	145	144	143
<p>アリス「んー、まあ、わかった。でもなあ、相手に近付いて捕まえないことにはエッチできないしなあ……」</p>	<p>イリス「でもアリスさん、相手に不用意に近付かないでくださいね。捕まったら勝機が薄れてしまいますから」</p>	<p>アリス「美人！ やた♪おっし、やる気出てきたぞ！ どうやって攻めてあげようかなあ」</p>	<p>イリス「それは会えばわかりますけど、大丈夫だと保証します。スライム族は身体はゲル状ですが、基本的にはヒト族と同じ形態です。それにサーラサーラは、特に美人ですよ」</p>

※第1…闘技場での試合開始の銅鑼の音

147

実況「さあ始まりました最強の部族を決めるハーレムバトル！
まず相対するのは、ヒト族代表、地球の勇者アリス選手！
そして、ねっとりさんな肉体でおなじみ、スライム族代表の
サーラサーラ選手です！」

148

アリス「うわわ！ほんとに身体がどろどろだ！でもちゃんと
人の形してる。こんな人もいるってことは、やっぱここ、ま
ぎれもなく異世界だ……！」

149

アリス「それよりも！イリスちゃんが言ってたとおりの美人さ
んだ！ううん、想像以上！モデルさんみたいなスタイル
してるし、気怠い系美女って感じ！こんな人ともエッチで
きるなんて……異文化交流最高！じゅるりっ」

	152	151	150
	<p>実況「サーラサーラ選手、自らの身体の一部を弓矢に変え、アリス選手に矢を放っております！ 対するアリス選手、これには防戦一方！ 避けるしか手がない！」</p>	<p>アリス「うわ！？ 危なッ！ スライム族ってあんなことできのの！？ 身体が武器になるなんて！？」</p>	<p>サーラサーラ「……なんか、よだれ垂らしてる？ ヒト族のくせに気持ち悪いな……。最初から酷いのに当たったかも。けど、私も代表に選ばれたし、仕方ないからやるか。ふッ！」</p>
<p>※㊦1…弓矢の矢を放った音※㊦1…弓矢の矢を放った音</p>		<p>※㊦1…弓矢の矢を放った音</p>	

156		155		154		153
<p>実況「アリス選手、何度も繰り出される鞭を辛うじて避けております！ しかし間合いを詰められない！ このまま鞭の餌食になってしまうのでしょうか！・</p>	<p>※se 1…バチンツと鞭を振るった音</p>	<p>アリス「うげ！？ 今度は鞭！？ きゃあ！？ 速度はたいしたことないけどつ、どっからくるのかわかんないし、意外に伸びてくるから読みにくい！ くああ！？」</p> <p>※se 1…バチンツと鞭を振るった音※se 1…バチン</p>	<p>※se 1…バチンツと鞭を振るった音</p>	<p>サーラサーラ「へえ、さすが勇者。でもね、私の肉体は変幻自在。飛び道具だけじゃないんだよ？ こんな風に——はッ！」</p>		<p>アリス「ひあ！？ くあつと！？ 本物より遅いから避けられる！ これなら攻撃が当たる距離まで詰められる！ ふんん！」</p>

161	アリス「なッ!？」
160	サーラサーラ「ふふんっ」
159	※ 0 .. 繰り返したパンチが対象にヒットした音 アリス「紙一重で避けて! おもつきり突っ込む! はあああ !!」
158	※ 1 .. バチンツと鞭を振るった音 サーラサーラ「ちっ。なんて速さ!? まさか鞭よりも速いなん て!」
157	アリス「集中力が切れたらあの鞭を食らう! じり貧になる前に なんとか肉薄しなきゃ!」

165	164	163	162
<p>実況「サーラサーラ選手のゲル状の身体がアリス選手を絡め取っていく！ 逃れることはできない！ こうなると始まるのはっ、スライム族特有の能力、エナジードレインだ！・</p>	<p>アリス「くうう！？ どろどろが手に絡み付いてっ、逃げられない！？」</p>	<p>サーラサーラ「捕まえた！」</p>	<p>実況「アリス選手の攻撃がサーラサーラ選手にヒット！ しかしスライム族にはただの物理攻撃は効果がありません！ 地球から召喚されたヒト族の代表、こんなところで知識不足が出てしまった！」</p>

169	168	167	166
<p>アリス「ぐは！？ はつ、ぐ！？ ゲホッ、ゲホ！ ハアハアッ ！ きゃああ！？ 服が脱がされッ、はぐ！？ あぐぐウ！」</p>	<p>サーラサーラ「さあて、生殖させてもらおうかな。好きでこんな 大会出てるわけじゃないから、このくらいの楽しみがないと ね。あ、窒息しないように顔だけは出しといてあげるよ」</p>	<p>実況「あーと！ アリス選手、完全にサーラサーラ選手の身体の中 に取り込まれた！ 本格的に生命エネルギーを吸われるぞ、 これはきつい！」</p>	<p>アリス「うっぐ！？ ああ……ッ！？ 身体から力がつ、勝手に 抜けてく……ッ？ ごぼ！？ おぼぼぼ！？」</p>

173	172	171	170
<p>アリス「くひん！？ だろだろの身体がつ、肌に擦《こす》れるだけで……っ、くひあ！？ ビリビリって、気持ちいいのが頭の中を直撃してくる！？ はぐぐ！？ うひ！？ ひひんッ！？ 今おっぱい……揉んだら！？ くひゃあんッ！」</p>	<p>サーラサーラ「ふふん。いつでも生殖できるように、私達の体液は即効性の媚薬成分が含まれてるんだ。みっちり味わわせてやるから、みつともなく発情するんだよ・</p>	<p>アリス「はひッ！？ ぐっひッ！？ なっ、何！？ 身体の芯が、ジリジリ疼く！？ 身体中がつ、熱くなつて……！？ はあッ！？ やっ、やだ！ くあんッ！ 勝手に淫らな気分……！？ ああッ、火照って、ダメ……！」</p>	<p>サーラサーラ「いい肉付きしてるね。生殖のし甲斐があるよ。さあ、催淫効果のある私の体液を、あんたの身体に塗り込んであげる」</p>

177	176	175	174
<p>アリス「あんんん!? 乳首っ、こね回すのもっ、やめて……! 自分で触るのとおつ、段違い! 力加減とか、全然違うから っ、すぐくゾクゾクして……くふあん!」</p>	<p>サーラサーラ「赤子を育てる母乳を出す、乳首も……クリクリッ、 クリクリッと!」</p>	<p>アリス「はひ!? いいンッ! 他人におっぱい、揉みしだかれ るのっ……こんなに気持ちいいの!? んんっくう、オナ ニーじゃ味わえない……!」</p>	<p>サーラサーラ「いい反応するね。ふふっ、揉みごたえのあるおっ ぱいだ。ほらっ、乳搾りみたいに、付け根から先っぽに向か って……ギユウッ、ギユウウッと!」</p>

182	181	180	179	178
<p>サーラサーラ「心配ないよ。それだけ媚薬が効いてれば、気持ちよくなるだけだからッ！」</p>	<p>アリス「それってまじもんのセックスってやつじゃん！ そんなのっ、嫌！ 男子から生えてるモノみたいな入れられるなんてっ、嫌だよ！」</p>	<p>サーラサーラ「これがヒト族と生殖するときには最適な棒さ。これをあんたの体内に挿入するんだ</p>	<p>アリス「何が、もういいって……ひッ！？ そっ、それ、何！？ そのグロい形したやつ！」</p>	<p>サーラサーラ「ふふ、体液もすっかり馴染んだようだね。それだけ感じてるなら、もういいかな？」</p>

187	186	185	184	183
<p>サーラサーラ「生殖棒をアソコの奥に……んんッ！」</p>	<p>アリス「悔しくて……ぐふう！ 痛い、のに……！？ くひあ！ ？ あっう、きつ、気持ちよさに……変換されてる！？ ウ ルドさんからコピーした能力が発動して……ああん！ 気持 ちいいよお！」</p>	<p>アリス「はぎインッ！？ サーラサーラちゃんの棒がつ、くっは ！？ 肉の穴の奥までつ、くる……！？ 処女膜、メリメリ ッて破いてる！・</p>	<p>サーラサーラ「おや、初めてだったのかい。試合前に好色そうな こと言ってたから、てつきり使い込んどるとばかり思ってた よ。でも、これは生殖しがいがあるね！」</p>	<p>アリス「ゲル状の棒がつ、アソコの入り口に！？ ひぎッ！？ いッ！？ はっ、入ってないで！ んんぎイ！？」</p>

191	190	189	188
<p>アリス「ぐいいいんッ!? スライムの棒っ膣内《なか》の壁、ゴリゴリ削ってる! ふっぐいんッ!? 奥にもっ、どんっどんってぶっけられて……っ、ぐひは!? 身体の芯にまで、響くう! ものすごい快感が、込み上げてくる!？」</p>	<p>サーラサーラ「今度は動くよ! いやらしい生殖穴の入り口から奥まで、出し入れる!」</p>	<p>アリス「痛いはずがっ、気持ちいいのはいいけど……っ、くはあ!?! いいけどお……! 犯されるのっ、ダメ……ッ!」</p>	<p>アリス「いひッ!? いつ、いいんッ!? 中の肉っ、グリッグリッて擦《こす》られながら……ふぎゅい!? 引き裂かれてる!? くはっ、あああ!・</p>

195	194	193	192
<p>アリス「ふぐいいンッ!?　だっ、ダメ!　男子みたいなグロい棒で……セックスされてるのにつ、気持ちよくなりたくないのに!　攻められるのたままない!・</p>	<p>サーラサーラ「感じすぎていいんだよ!　んっ、ン!　気持ちよくなって、私にその快感ごと生命力を吸わせるのさ!」</p>	<p>アリス「んぎッ!?　ひぎぎッ!?　それっ、ダメ!　子宮口につ、生殖棒はめ込むのっ、きひゃあ!?　そんなゴツゴツきたらっ、感じすぎるからア!」</p>	<p>サーラサーラ「ほーら、ここっ。ヒト族の子供が宿るとこ……んん!　子宮だろ!　この入り口に生殖棒を叩き付ける!」</p>


200	199	198	197	196
<p>アリス「ひぎゃあ！？ そつ、それえ……だつ、だああああ！？ ンンンンンッ！？ イクッ！ いやあああああッ！！」</p>	<p>サーラサーラ「ここでつ、生殖棒を捻るッ！ グリつてね、くん ん！」</p>	<p>アリス「ぐつつつはッ！？ ゲル状の棒つ、子宮口にずっぽり… …食い込んだ！？」</p>	<p>サーラサーラ「そろそろとどめ！ 私も生殖させてもらうから！ ふんんッ！」</p>	<p>アリス「赤ちゃん育てるところ、乱暴に叩かれてつ、イひいいッ！ ？ 気持ちいいッ！ 気持ちいいイ！ このつ、ままじや…… イッ……イ……ッ！」</p>

204	203	202	201
<p>サーラサーラ「ああんっ、卑猥な穴の肉でっ、生殖棒がズリズリ擦られてる！？ ふああっ、アリスのアソコっ、なかなかの名器だね。これまで使ってなかったのが勿体ないよ！」</p>	<p>アリス「はひひインッ！？ イッてるときにつ、子宮の口い、グリグリしないでええええ！！ イキながらっ、イッちやうから！ いひひイインッ！」</p>	<p>サーラサーラ「あああっ、いいよ！ いやらしい肉穴がキュンキュン締まって！ くはあ！ 私もっ、イイ！ もっとイッて！」</p>	<p>アリス「子宮口っ、卑猥な棒の先でグリンってこそがれて……イク！ イッてるう！？ ンンンいいいいッ！？」</p>

208	207	206	205
<p>アリス「あうう……っ。そう、だ……。私、イリスちゃんとも……エッチしてない……っ」</p>	<p>イリス「アリスさん、しっかりして！　ここで負けたら、ハーレムクイーンにはなれませんよ！　エッチもできなくなります！」</p>	<p>アリス「うつく！？　くっ、ハア！　ハアハアハアッ……イツひ……スライムの棒でえ……イカされたあ……っ。あうっ、はうう……ッ」</p>	<p>アリス「こんなのヤだ！　私は抱かれるんじゃないくて……女の子を抱きたいのに！　ふひっ、まだイク！？　ン~~~~ッ！」</p>

212		211		210		209
<p>サーラサーラ「何!? アリスの身体が凍り付いて!? 私の身体まで凍て付…………くあぁッ!？」</p>	<p>※300..ぱきぱきと物が瞬時に凍り付いた音</p>	<p>アリス「私の…………武器…………? 私の、武器は…………拳…………足…………。そう…………そうだつ。私の武器は、この肉体そのものよ!」</p>		<p>サーラサーラ「ふふん。悦楽の余韻に浸りながら何をしたって、勝ち目なんてないよ」</p>		<p>イリス「ウルドからコピーした、氷の能力を使ってください! アリスさんの武器を、氷に変えて!」</p>

216	215	214	213
<p>イリス「やったー！ アリスさん、勝ちましたよ！」</p>	<p>実況「アリス選手、自ら纏った氷を砕いて生還！ 一方のサーラサーラ選手、どろどろだった肉体は完全に凍り付き、木っ端微塵になってしまいました！ ここでサーラサーラ選手は戦闘不能と見なし、アリス選手の勝利とします！」</p>	<p>アリス「んんんッ！ だあッ！！」</p>	<p>実況「あーと、アリス選手の突然の逆襲！ 自分の身体とともにサーラサーラ選手を氷漬けに！ スライム族は打撃は効きません、こうした魔法にとっても弱い！」</p>

※1…大きな氷の塊がバキッと砕け散った音

	219	218	217
	<p>アリス「そ……そうなんだっ。はあぁ……それならよかった……。いくら異世界にきたって言っても、人殺しにはなりたくないしね。それにこんな可愛い女の子を自分の手にかけるとか、あり得ないし！」</p>	<p>イリス「それなら大丈夫です！ スライム族はこの程度では死にません。身体が溶ければ、また元通り一つになって蘇生しますから」</p>	<p>アリス「うっ、ああ……っ。どうっ、しよ……！？ 私っ……相手っ、こっ、殺しちやつ、た……！？」</p>

※80…魔法を体得した音(エナジードレインして
身体に吸収したようなイメージ)

223	222	221	220
<p>ライラ「へへっ、いいねえ。骨のありそうなのが勝ち上がってきそうだ。この大会、ちよっとは楽しめそうだぜ」</p>	<p>マツリ「ほほほ。なるほど。地球の勇者……なかなか面白そうですわね」</p>	<p>アリス「勝てたのはイリスちゃんのアドバイスのおかげだよ、ありがとね！ よかったあ、負けなくて！ 女の子を抱くのはこれからだもんね！」</p>	<p>イリス「勝ったことでまた一つ、能力を得ましたね。今度はサーラサーラのエナジードレインです」</p>